

浜松発！医療・福祉・教育が一体となって地域のために やすらぎメデイカルセンター

浜松の方言「やらまいか」。やると決めたら全速力で「やろう」ということらしい。「医療・福祉・教育それぞれの技能を持つ浜松っ子たちが集まり、地域のために「やらまいか」とひとつになった。1階には清水クリニック（清水史雄院長・内科・小児科他）、2階は「デイサービスやすらぎ」（平野達郎薬剤師・3階にはやすらぎデンタルクリニック（鈴木真幸院長・歯科・口腔外科）」というグループ開業である。またこの建物の所有者、道路を隔てて隣接する芥田学園（宮下祐一理事長・小柳津保美事務長）からは、福祉コースの高校生が2階に実習にやってくる。バリアフリーなのは建物だけではない、そんなやすらぎメデイカルセンターが昨年12月2日に開院した。キーワード……医療と福祉と教育の一体化



身障者用トイレのドアはセンサーで開閉する（1階）。

それぞれが地域のために目指すものが、銀行を通じて合致

介護現場の医師不在は不安であるため、医療と福祉の複合施設は珍しくない。やすらぎメデイカルセンターの特徴はここに教育まで巻き込んでいることだ。旧知の3人だが1年前、老人医療や救急医療に携わっていた清水医師と、磐田市で在宅介護支援センターを経営していた平野薬剤師が、それぞれかねてから温めていた地域医療や介護の構想について意気投合、賛同した鈴木医師が加わった。開業して自分たちの技能を地域医療に役立てたいと、計画は具体化していく。清水医師は経験上、介護スタッフ教育における基礎固めの重要性や、従来の病院とは異なる複合施設の必要性を感じていた。

一方、芥田学園高等学校（中学併設）普通科にも生徒教育の目を福祉にも向けたいと思惑が前からあった。昨年2月には銀行を介し医師たちのチームと検討を始め、翌月には福祉コースの設置を理事会で決めていた。所有していた3階の建物を改築して複合医療施設にする。構想が目の前

に「デイサービスの施設ができること」で確実になったのだ。生徒獲得をはかり、卒業時にヘルパー2級を獲得できるようにもした。現段階での手応えは上々だが、福祉行政が教育現場へのバリアとなり資格取得の認定には難儀する。そこは福祉分野の平野薬剤師の助言もあり、解決できた。

春には年内開業を決め、工事は8～11月上旬、と急ピッチで準備が進む。「やらまいか」の本領発揮である。地域のために、という明確な目的のために環境を整えていく。バリアフリーを基底に、一度建物内に入ってしまうほどの階へも出入り自由だが、なぜデイサービスが2階なのだろう。

「車椅子と15人乗りのエレベーターで2階でも対応できます。それより、痴呆の人が周囲の気づかないうちに外出するのを未然に防ぎたいのです。それに2階というのは日当たりもいいし眺めもいい。2階からだとも生徒さんがグラウンドで運動しているの



目の前にあるバス停まで、浜松駅から6分ほど。

「あの施設に行けば何とかなる」を目指して

開院から2週間で、内科も歯科も1日25人が来院、デイサービスも10人が利用する好調な滑り出したが建物の総称「やすらぎメデイカルセンター」に行政が抑止をかけた。「メデイカルビル」なら問題ないが、「センター」は望ましくないという。

「医療センター」というと専門医集団という誤解を招くし、規模が小さすぎる、と。私たちがやろうとしていることは、大病院などの「総合診療科」のようなことで、治せるも

「これは、狭い専門領域での集学的な治療が必要ならば紹介するなどの対応をする」といふことです。初期の段階は専攻医療では絶対に必要だと思われ、医師も福祉も、お年寄りを社会で支えないとやっていけないくらいです。総合的に相談ができません。



大きな画面のテレビ(上)と手動で上下するリフトのある浴室(左)(2階)。



カンファレンスルームは改装前が教室であったことを物語る(3階)。



隣接する芥田学園。

キーとなっていく カンファレンスルーム

患者を互いに集客しやすいグループ開業だが、合わない医師に無理に参加を要請するよりも、と改装せずにカンファレンスルームとなつていくスペースが3階にあつた。具体的な利用法は検討中だが、地元の人々の健康維持に活用する。健康機器設備を整え、無料で貸し出す計画もある。かつての教室、というのをそのまま生かしてもいい。医師たちが集まつて今後の方向性を協議していくこともできるし、講演会もできる。「最初は3人でも5人でも、来てい

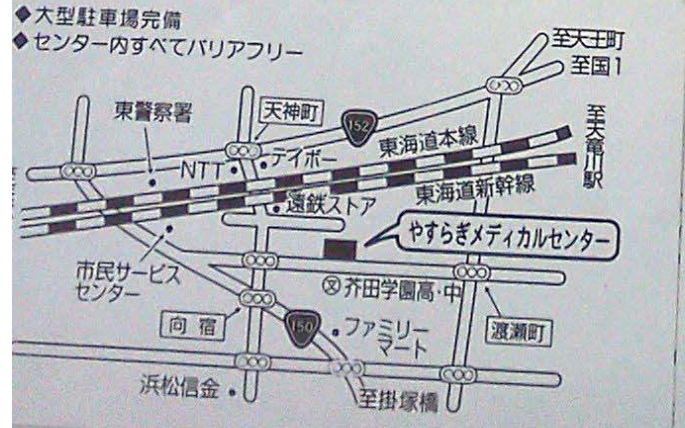
いと駄目なのです」(清水医師)今後、調整しながら、長い目で見て行政にも「センター」といつて納得してもらえらるものにしていきたいという。内覧会で受けた質問の多くが、介護保険法に関するものだった。簡単に聞ける場所ができた安心した人も少なくならつたらう。三者の情熱は行政を傾かせるのではないが、

ただけならいいですね。僕らのことを理解してもらつたという意味でも。たとえば在宅介護教室や、お年寄りの口腔ケア、インフルエンザの予防など、コラム的な講演をやらせたいいなあと思つています」(清水医師)つまり、診療以外の目的で病院に地元の人があるという意味でもこのセンターはバリアフリーなのである。「まず知らない建物に入つてみるという怖さがあるわけですよ。その意味で、カンファレンスルームでいろいろなことをやつていくのは大切だと思つています。バス停裏の掲示板でお知らせもして」(鈴木医師)ところで、これからは人材も現場で育てていく必要がある。芥田学園では介護福祉教育の基礎がこの春創設される福祉コースで行われ、現場を見ながら自分らが何をすべきか、をきつちり学ぶ。手応えがあれば介

護福祉科へ展開していく構えだ。また、地域医療の告知はこうしても口コミに頼ることになる。3人は誠意を持って医療に携わつていけば時間が解決すると思つている。そのためには地道にやつていくしかない。「その点では、学校は先生方には強みになります」(小柳津事務局長「保護者もいますから」(宮下理事長)実際、親の介護を実際にしていくのは子供の高校生入学以降が大半だ。学園を訪れば建物が視界に入つてくる。歯科が芥田学園の校医になつたことも大きいだろう。生徒が卒業後に来院することも考えられる。認知度は時間とともに高まるだろう。「高校生なんてすぐお母さんになりますから、お子さんを連れてくる、そういう時間の経過というのもあるわけです」(清水医師)地域医療への貢献を渴望する異分

やすらぎメディカルセンター
〒430-0851 静岡県浜松市向宿1丁目21-16

3F	やすらぎデンタルクリニック 診療科目…歯科・口腔外科 職員数…3(医師1、歯科衛生士1、歯科助手1) ☎053-467-0933	カンファレンスルーム
	デイサービス やすらぎ 職員数…8 (看護婦2、薬剤師2、介護支援相談員1、ヘルパー3) ☎053-467-0922	
2F		
1F	清水クリニック 診療科目…内科・皮膚科・小児科・東洋医学 職員数…5(医師1、看護婦2、事務2) ☎053-467-0911	やすらぎ薬局 保険調剤薬局 薬剤師数…2 ☎053-467-2221



2階にて。上段左から芥田学園の宮下理事長、小柳津事務局長。下段左から清水院長、鈴木院長、平野薬師。

野の浜松っ子たちが一丸となり、疾走を始めた。浜松に限らず、複合医療施設のひとつのお手本となる自負を持つて。要望があればどこへでも、話をしに文字通り駆けつけるという情熱家たちの「やすらぎメディカルセンター」のこれからに期待したい。

文・仁科 典子